

笑顔の松明を



広く遠く高く

60th

2026年度 グループ活動報告書

| | | | |
|------|-----|----------------------------------------------------------|----------|
| 報告月 | 4月 | グループ名 | 短歌「きさらぎ」 |
| SDGs | No. | 翌月、5日までにデータで提出ください 送信先：mailto:astesun@aste-toyota.com | |

内容：

本日は兵藤さんと鈴木さんが欠席でしたので、山田さん・見玉さん・北沢の3人で行いました。しっかり短歌に向き合った濃厚な時間でした。

同じ刻 同じ木に鳴く春の鳥 情じぬ気のなく唯ひびくうらに
たわい無き お喋りの窓 蝶まぎる 花より美しき影を残して > 山田 作

それぞれの木にそれぞれの芽を立たせ 新にな命を育み耀う
去年植えしスカシユリの鉢に新しき芽の立ち初めて肥しとやりぬ > 見玉 作

先輩の春の短歌は、鳥も蝶も木も花も生き生きと躍動していて生命力を感じます。今回「ビオラの切り戻しをし：事」「紫陽花の枯れ枝の剪定」の表現を直接的な言葉ではなく「花の気持ちいなる次の花に繁ぐ」「命を繁ぐ 新芽を表に」とのアドバイスを頂き勉強しました。